

医療・健康セミナー

がんと向き合う
～ 家族が支える、地域が支える、そして、みんなが支える～

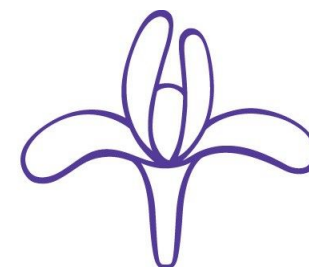
報 告 書

共 催 : NPO法人 キャンサーリ
ボンズ
川崎市立麻生図書館

2010年3月14日（日）



読書のまちかわさき



開催概要

3月14日(日)に、麻生図書館とキャンサーリボنزの共催で開催された医療・健康セミナー「がんと向き合う～家族が支える、地域が支える、そして、みんなが支える～」は、NPO法人と公立図書館が協力して地域に情報発信していくという、おそらく全国でも初めての試みでした。

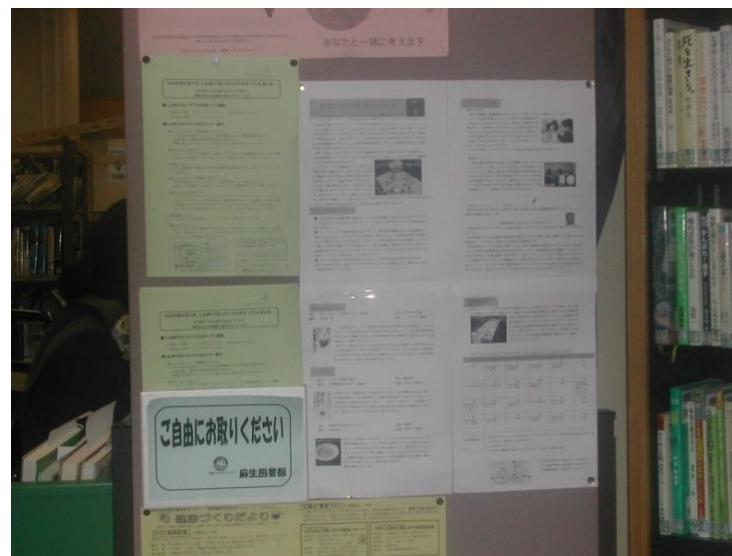
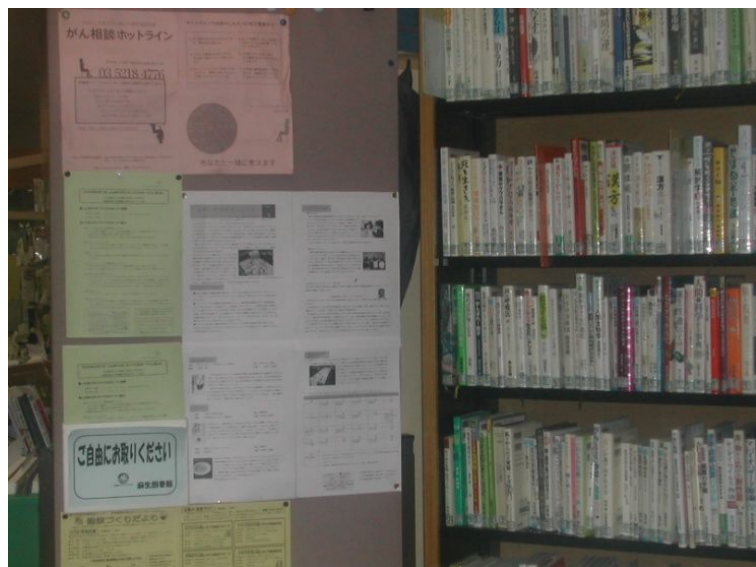
日 時 : 2010年3月14日(日)
会 場 : 麻生市民館 視聴覚室 (神奈川県川崎市麻生区)
参加者 : 50名
共 催 : NPO法人キャンサーリボنز ・ 川崎市立麻生図書館
プログラム :

- *「みんなで支えあう、これからの“がんケアネットワーク”のあり方とは」
講師: 福田 護 (キャンサーリボنز理事長、聖マリアンナ医科大学プレスト&イメージングセンター院長)
- *「しんゆりリボنزハウスの取組み～麻生図書館との連携がスタート～」
講師: 岡山 慶子 (キャンサーリボنز副理事長)
- *「がんに関する本の紹介」
講師: 舟田 彰 (麻生図書館)

セミナー後、多くの方がしんゆりリボنزハウスを見学されました。



川崎市立麻生文化センター



麻生図書館内に設置された、しんゆりリボンズハウスコーナー

ご案内の内容

◆麻生図書館・文部科学省「図書館海援隊」プロジェクト事業に参加！◆ | 行政情報[イベント・講座... Page 1 of 1]
お城情報サイト「お城いぶれ」は、みなとがらみは白紙転写で変わらぬ、そんなお城の情報をお届いたします。



行政情報[イベント・講座]

川崎市イベント・講座の情報をお届いたします。

◆麻生図書館・文部科学省「図書館海援隊」プロジェクト事業に参加！◆

「図書館海援隊」プロジェクトとは、文部科学省の呼びかけに、有志の公立図書館が副都庁と連携しながら、課題解決支援サービスの一環として、貸出・読者支援以外にも、相談や住民の課題解決を支援するため、医療・健康、福祉、法務等に関する様々な支援を行うプロジェクトです。

そこで、麻生図書館の取組に対し、文部科学省から「図書館海援隊プロジェクト」参加依頼があり、その取組に参加し、さらに課題解決型の図書館として、市民に役立つ図書館サービスの充実を図っていくことになりました。

問合せ先

川崎市立麻生図書館
044-951-1305

備考



【麻生図書館の取り組み】

- ◆「新しい利用状況-読者-部属支援」コーナー設置
- ◆「おくんのメンタルヘルス」コーナー設置
- ◆「セカンドステップ-シニアライフを学ぶための1冊」コーナー設置
- ◆「読書商品・多言語版に寄る情報提供コーナー(予定)」コーナー設置
- ◆「介助に関するコーナー(予定)」コーナー設置
- ◆「読書に関する本」得意コーナーコーナー設置
- ◆消費者行政センターコーナー設置(通年常設中)
- ◆「健康就業セミナー」[がんと向き合うために-家族で支える、地域で支える、みんなが支える-]開催予定(平成22年3月14日)※締め切りました。ご了承下さい。(3月8日)

川崎市衛生保健局が中心に拠点を設け「がん患者さんの治療と生活のサポート支援機関」NPO法人「がんセンターリボンズ」との共同事業実施。

◆神奈川県・川崎市共催事業「街頭啓発相談」への協力(2月18日参加)

川崎市立図書館ホームページ 麻生図書館お知らせページ

文部科学省「図書館海援隊」プロジェクトについて

2月18日街頭啓発相談で配布した麻生図書館と読者支援局長官兼麻生図書館のチラシ

他人事ではありません

医療・健康セミナー

川崎市立麻生図書館・NPO法人「がんセンターリボンズ」共催事業

生活情報発信中
麻生図書館

がんと向き合う

～家族が支える、地域が支える、そして、みんなが支える～

*日時：3月14日(日)

14:00～15:30(開場：13:45)

わが国は、男性の2人に1人、女性の3人に1人が、生涯に「がん」患者になる確率があるとされています。「がん」は他人事ではなく、今、私たちが生活している社会の中に数多くの「がん」患者さんが日々生活しています。

患者ご自身、又はその家族そして地域社会がこの病気について「どう受け止め、そしてどう支えるか?」ということをお考えの機会にしてほしいと思います。

今回は新百合ヶ丘に拠点をもち、「がん患者さんの「治療と生活」」を地域社会の中でサポートしているNPO法人「がんセンターリボンズ」との共催事業で行います。

また、3月1日(月)～31日(水)までの予定で「がんに関する本」の特集コーナーを行います。是非ご活用ください。

*講師

福田 護 みんなで支えあう、これからの「がんケアネットワーク」のあり方とは
がんセンターリボンズ代表理事・聖マリアンナ総合大学プレスト&イメーティングセンター特任

岡山慶子 「しんゆりリボンズハウスの取組み～麻生図書館との連携がスタート～」
がんセンターリボンズ副代表理事

*会場 麻生図書館 視聴覚室

*対象・定員 18歳以上の方 40名

(※座席なし。但し、ベビーカーでの入場可)

*募集方法 2月16日(火)

10:00から電話またはカウンターで受付

がん患者さんの治療と生活のサポート支援機関
http://www.ribbonz.jp/

*共催 特定非営利活動法人「がんセンターリボンズ」・川崎市立麻生図書館

問合せ 川崎市立麻生図書館 Tel. 044-951-1305

がん患者さんの「治療と生活」をつなぐ

NPO法人「がんセンターリボンズ」

わが国では、男性の2人に1人、女性の3人に1人が、一生にがんにかかる患者と見られています。がんは全ての人にとって他人事ではありません。生活の場の中で、ひとりひとりが支える場になるため、支えられず悩む人もいます。がんを克服し、その後の長い人生を歩んでいる人もいます。また、病気と向き合いながら生活している人もいます。がん治療を受ける人たちにサポートする人がいます。今、症状や副作用ケア、精神面のケア、リハビリテーション、身体に関わるケア、ワークライフ、特に女性では更年期ケアやおしりやなど、「治療と生活をつなぐ」情報や、心身の適切なケアが多岐にわたる人たちに支えられています。この現状を受けとれ、私たちはがん患者さんやそのご家族、ご友人のサポートを支援するNPO法人「がんセンターリボンズ」を設立する運びとなりました。がんセンターリボンズという名称には、患者さん、ヘルスケアに関わる多くの専門家、早期発見や予防治療活動に従事する方など、全ての人々がリボンで結ばれるようにこの活動につながっていただければ、という気持ちで活動されています。患者さんと患者さんなど全ての人々が同じ目標で連携し、情報を共有し、お互いが思いあひ、力づけあひながら、がん患者さんの苦しみを和らぐ、自分らしい生活を支えることを目指しています。この活動が、明日の癌気元気を、生きる喜びにつながることを願っています。

特定非営利活動法人「がんセンターリボンズ」 理事長 福田護 (聖マリアンナ総合大学乳癌・内分科外科学教授)

しんゆりリボンズハウス

TEL 044-281-3357

■ 開館時間 毎週月～金曜日 11:00～17:00
(祝日は休館)
毎月第2土曜日 11:00～17:00
(祝日と重なる場合には変更)

文部科学省「図書館海援隊」プロジェクト事業

従来より公立図書館では、読者に対する情報提供・相談業務を充実させ、地域が抱える様々な課題に対する解決支援サービスを実施しております。

本年1月、図書館サービスに関する知見の豊富な有志の図書館が「図書館海援隊」を結成し、貸出・読者に対する役立つ支援としてネットワーク等関係部局と連携しながら、より本格的・継続的に開始しました。

この取組に対し、他の図書館からも参加希望が寄せられ、新たに8館が参加することとなり、麻生図書館も参加することとなりました。

また、麻生図書館でも、地域や住民が抱える課題解決を支援するため、医療機関・保健福祉センター・法テラス等関係部局と連携しながら、医療・健康、福祉、法務等に関する役立つ支援・情報の提供に努めてまいります。

「図書館海援隊」の活動状況については、文部科学省ウェブサイトの以下のページでご確認ください。
http://www.mext.go.jp/s_menu/01.htm

< 川崎市公認の地域情報サイトのご案内 >

< チラシをリボンズハウス、図書館、その他で配布 >



「挨拶」
麻生図書館長 池原真さん



「がんに関する本の紹介」
麻生図書館 舟田彰さん

以前から、カウンターに座っていると来館者から医療情報や医療の相談を受けることが多く、そんな方に役に立つ図書館として医療情報をお届けしたいと思っています。公共図書館は家庭医療書が中心ですが、入門書、ガイドラインなど、さらに情報量を充実させ、病例に即して広げていきたいと思っています。図書館もだんだんよくなる。しかし本を読んでもわからないことがある。わからない時には相談してくれるところを紹介するのが図書館の役割です。これからの日本の大きな流れになりたいと思います。身近な図書館がその自覚を持っているということを皆さまへお伝えしたいと思っています。

「みんなで支えあう、これからの“がんケアネットワーク”のあり方とは」

福田護(キャンサーリボンズ理事長、聖マリアンナ医科大学プレスト&イメージングセンター院長)



【講演概要】

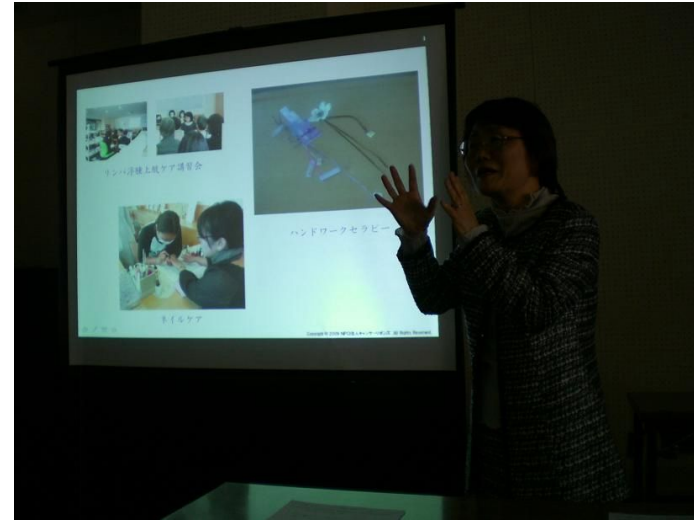
昨年3月に聖マリアンナ医科大学のプレストケアセンターができました。そして乳がん治療とはちょっと別にキャンサーリボンズができました。このNPOがどのような社会をめざし活動をしているか、そしてみんなで支えるこれからのがんケアネットワークとは何かをお話したいと思います。

医療者、患者さん、家族、社会全体でネットワークを作ることが日本の社会にとって必要です。患者さん中心のがんケアを入院中は専門家が担うことができますが、社会の中では、患者さん中心に専門家がケアすることは不可能です。核家族化、短い入院期間などにより、患者さんたちは社会のサポートも受けながら自立していかなければなりません。患者さんが社会との関係性の中で自立するために、リボンズハウスではさまざまなテーマに取り組んでいます。

情報に関して、「知る」ということは「全体を知る」ということです。全ての情報を知りうまくシェアすること、また氾濫する情報から適切な情報を得るためには情報を整理し発信し得ることが大切です。しんゆりリボンズハウス本部にはリソースセンターもあり情報を検索できます。日本でがんの情報を病院の施設内ではなくて街角で得ることができるのは私が知る限りここだけです。情報を得ることは大変です。情報を整理する。情報を発信する。情報を発信するシステムを作る。情報を共有する方法をつくる。情報を消化できるようにする。情報を活用できるようにする。このような情報を作り、整理する能力がある『図書館』は地域に根ざし、ぬくもりがあるので、がんの情報センターになり得る一つのモデルとして大変夢のあることです。明日の勇気や元気につながるように活動にご支援いただけることを期待しています。

「しんゆりリボンズハウスの取組み～麻生図書館との連携がスタート～」

岡山慶子(キャンサーリボンズ副理事長)



【講演概要】

図書館とNPOはどのような交流ができるかと私なりに考えてみました。それぞれがお互いを紹介し合う、ツールを交換する(冊子、DVDなどの資材)、NPOの理事などの著書を紹介する、NPOと図書館とが共同でコーナーをつくる、リボンズハウスで図書の新着紹介をする、図書館にがん支えあい応援グッズを置いていただく、お互いにアドバイスや意見を交換する、共同イベント(NPO理事の講演会、チャリティイベント、読書会、ブックフェアなど)を開催する、共同研究、など多くの交流ができそうです。

日本全国にリボンズハウスが設立されています。もうすぐ設立される予定のリボンズハウスもあります。社会の発展のためには地域が活性化することが大切です。地域が活性化するためには地域の方々のお互いの助け合いや情報の交換などが大切です。現代注目されている概念にサステナブル社会(持続可能な社会)ということがあります。そこでは、「Think global Act local = 考え方は世界に通じ、行動は地元で。」というのが原則です。

麻生図書館としんゆりリボンズハウスの連携が、全国に先駆けてスタートしました。これをきっかけに全国にこの取り組みが広がることを願っています。地域から始まったこの連携が日本中に広がり、そして世界に広がっていくために皆さまのお力をお貸し下さい。

会場の様子



【参加者からのご感想】

遠くから駆けつけた甲斐があった会でした。とても感動しました。新しい可能性が見出された会でした。キャンサーリボンズと図書館がつながる瞬間に、私達も立ち会ったのですね。その意味を、今度は私自身が考え、次のアクションにつなげていきたいと思います。館長さんの言葉も胸にしみました。「街の身近な図書館が発展することが大事」。それには、福田先生がおっしゃったような、「温もりのある情報」が必要なのでしょう。プロフェッショナルの手厚いエビデンスに支えられ、それでいて、きめ細やかな患者さんの視点という点がすばらしく、私たち医療人こそ見習うべきと痛感しました。